



地域とともに歩み、
地域の未来を拓く学校

湖南市立石部小学校
校報第130号その1
卒業記念号

令和2年(2020年)3月17日
文責: 校長 法山 由紀子

令和元年度 第145回卒業式

56名の卒業生「ふるさと石部小学校」から立派に巣立つ

(校長式辞より抜粋)

2月28日の朝。

前夜の突然の報道に不安の色を隠せない、そんな表情で登校した6年生・・・あなたたちの中に

「校長先生、休校になっても仕方ないけど、卒業式だけは絶対にさせてください！」

真剣な表情で私のもとにこう訴えにきた人たちがいました。

今も、あの表情が忘れられません。

「どうかこの本気の願いが無事に叶えられますように・・・。」

あれから一日一日を祈るような気持ちで過ごし、・・・そして迎えた今日。令和2年3月17日。

本日ここに、令和元年度湖南市立石部小学校第145回卒業式を挙げていただけますことは私どもにとりまして大きな喜びであり、今年度の喜びはまた格別です。

ご来賓のPTA三役のみなさま、教育委員伊藤真昭様、保護者の皆様には、公私何かとご多用のなか、ご臨席いただき、誠にありがとうございます。

高壇からではございますが、厚くお礼申し上げます。

さて、私は、今まで「卒業式」は、当たり前のようにやってくる日だと思っていました。

しかしながら、そうではありませんでした。しかも、本日の卒業式は、このような状況で迎え、さまざまな制約があるなかで行われています。

本来なら、ここには当たり前のように在校生がいて、「あこがれ」の卒業生に直接おめでとうの気持ちを伝えていたはずでした。それが叶わないことで、きっとさびしく悲しい思いをしているでしょう。

でも、卒業生のみなさんならきっと、この当たり前でない状況を理解し、こうやって今できる最高の準備を整えていただいたことに感謝して、この卒業式に臨んでくれていると信じています。

この後のプログラムにあるみなさんの「別れの言葉」も文字どおり「ぶっつけ本番」です。だから、できばえなんか気にせず、悔いの残らないよう、この仲間といっしょに精一杯思いを伝えてください。ここにおられるご家族はもちろんのこと、ここにはおられないご家族や地域の方々そして、かわいい在校生たちにもその思いが届くよう、思いっきりやりきってください。

私もこうしてみなさん一人ひとりに「卒業証書」を手渡すことができたことには感謝の気持ちしかありません。改めて、卒業生のみなさん、「卒業おめでとうございます」

みなさんが手にされた卒業証書。一人ひとりにとって、ただ一枚の証書ではありますが、その中には、あなたの小学校6年間のさまざまな思い出や努力のあとがみつまっています。

私も卒業生一人ひとりの、あのときのやさしい姿、かっこいい姿、最高の笑顔の思い浮かべながら、心をこめて卒業証書に名前を書かせていただきました。

